

(3)地産地消

【地産地消の推進】

県では、平成16年にとちぎ地産地消県民運動実行委員会を設立し、とちぎ地産地消推進方針に基づき、県民運動として地産地消を推進しています。

令和2年度は、とちぎ地産地消県民運動実行委員会と連携し、地産地消に積極的な取組を行う団体等を表彰する「とちぎ地産地消夢大賞」を実施したほか、学校給食における県産農産物の利用拡大を図るため、「とちぎの学校給食地産地消研修会」を開催し、課題の共有や解決方法についての検討を行うとともに、市町や生産団体へ県産農産物の購入費用や供給体制の構築等に必要な費用を助成しました。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、外出の自粛などの不自由さを感じながらも地産地消を通して健康で心豊かな生活を送れるよう、県内の道の駅において、旬のおすすめの農産物や調理方法などの情報を掲示する「コロナに負けるな!!とちぎの地産地消元気アップ運動～とちぎの恵を食卓に～」を実施し、県産農産物の消費拡大に取り組みました。

また、県庁生協食堂のほか、県庁2F喫茶やしお及び足利銀行本店の社員食堂と連携し、「地産地消メニュー」の提供や、県産農産物に関する情報発信を行いました。

今後も、関係機関や団体と連携しながら地産地消の取組を推進し、県産農産物の生産振興や地域の活性化、更には健康的で豊かな食生活の実践を目指していきます。



とちぎ地産地消夢大賞「はとむぎで健康長寿100歳を目指すまちづくり推進協議会」が企画・開発した、「はとむぎふりかけ」と袋詰め「焙煎はとむぎ」



「コロナに負けるな!!とちぎの地産地消元気アップ運動～とちぎの恵を食卓に～」でおすすめ農産物等の情報を記入している様子

事例 とちぎの学校給食地産地消研修会の開催

学校給食での地場産物の利用拡大を図るため、10月6日に「とちぎの学校給食地産地消研修会」を開催し、市町の地産地消担当者や学校給食関係者など約70名が参加しました。

当日は、日光市農林課から、(一財)都市農山漁村交流活性化機構が実施している地産地消コーディネーター派遣事業を活用した、学校給食における地場産物の利用拡大に向けた取組について報告がありました。

日光市は、学校給食に地場産物を活用する取組を推進してきましたが、農地が少ない中山間地域の学校への地元産食材の安定供給等について課題が生じていました。このため、地産地消コーディネーターを交えながら、生産者や学校関係者による意見交換を重ね、供給体制の課題を整理し、改善が図られました。

県では、今後とも、市町への地産地消コーディネーターの派遣や研修会を通じて、県内外の取組事例等を情報提供するなどして、地場産物の利用拡大の取組を支援していきます。



研修会の様子



事例報告の様子

事例 コロナに負けるな!! とちぎの地産地消元気アップ運動の取組(河内地域)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴うステイホームにより、農業者が手掛けた農産物や加工品(6次産業化商品)の消費が大きく落ち込みました。

そこで、河内農業振興事務所では管内6次産業化商品の販売促進を図るため、6月の「父の日」を見据え、「コロナに負けるな!! 地産地消元気アップ運動」を展開しました。

内容は、河内6次産業化商品販促実践セミナーに参加する宇都宮市・上三川町の農業者等がプロデュースした商品(愛称「六次郎」)のリーフレットを作成し、管内の関係機関・団体の職員を対象に試食商品とともにサンプル品を籠に盛り、各所に一定期間展示・紹介し予約販売を実施しました。

関係機関・団体272名の方から協力をいただき、商品販売数は、合計1,000個を超え、頑張る農業者の販売促進を支援することができました。



六次郎リーフレット



番号を貼ったサンプル品を籠に盛り展示・紹介